

全国の海業の事例について

令和6年 11月7日



一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所
常務理事（第3研究部長） 伊藤 靖

目次

1. 海業とは
2. 各地の様々な海業の事例
3. R5海業振興に向けた事業化支援調査実施地区
4. 海業のキーマンとなる中間支援組織の事例
5. まとめ

1. 海業とは

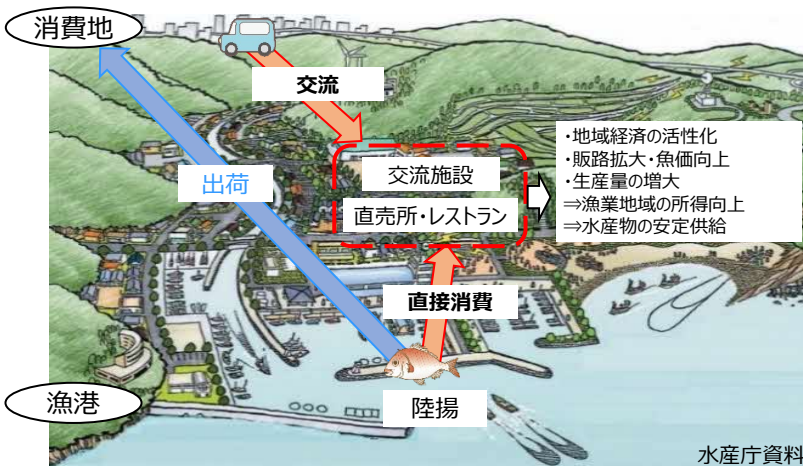
- 漁村では、全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行、活力が低下。
- 一方、**漁村の交流人口**は約2千万人と**大きなポテンシャル有**。

⇒ **漁村の賑わいの創出**が重要。

海業（うみぎょう）の推進により、地域の所得向上と雇用機会の確保を図る

海業
とは

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、**地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの。**
(水産基本計画)



新たな漁港漁場整備長期計画（令和4年3月決定）の基本的な方針

前計画（H29～R3）

- 以下の4つの重点課題を設定し、漁港漁場漁村の総合的かつ計画的な整備を推進

重点課題

- (1) 水産物の競争力強化と輸出促進
- (2) 豊かな生態系の創造と海域の生産力向上
- (3) 大規模自然災害に備えた対応力強化
- (4) 漁港ストックの最大限の活用と漁村のにぎわいの創出



情勢の変化

- 水産業・漁村を取り巻く状況
 - ・ 水産資源の減少による漁業・養殖業生産量の長期的な減少、漁業者の高齢化、漁村の人口減少
 - ・ 気候変動に伴う海洋環境の変化、自然災害の頻発化・激甚化
- 新たな政府方針の策定、社会情勢の変化
 - ・ 「水産政策の改革」の実施
 - 新たな資源管理システムの構築
 - マーケットイン型養殖業への転換
 - 農林水産物・食品の輸出額目標5兆円等
 - ・ カーボンニュートラルに向けた取組の推進
 - ・ デジタル化の進展
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大等

新計画（R4～R8）

- 今後5年間に取り組むべき重点課題を以下の3つに整理
- (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産物の成長産業化
- (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保
- (3) 「海業（うみぎょう）」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産物の成長産業化

ア 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

漁港機能を再編・強化し、低コストで高付加価値の水産物を国内・海外に供給する拠点を創出する。

イ 養殖生産拠点的形成

国内・海外の需要に応じた安定的な養殖生産を行う拠点を創出する。



(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

ア 環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境を的確に把握し、その変化に適応した持続的な漁業生産力を持つ漁場・生産体制をつくる。

イ 災害リスクへの対応力強化

災害に対して、しなやかで強靱な漁港・漁村の体制をつくる。将来にわたり漁港機能を持続的に発揮する。



(3) 「海業（うみぎょう）」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

ア 「海業（うみぎょう）」による漁村の活性化

海業等を漁港・漁村で展開し、地域のにぎわいや所得を創出する。

イ 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

年齢、性別や国籍等によらず多様な人材が生き生きと活躍できる漁港・漁村の環境を整備する。



また、以下の事項についても共通する課題として取り組む。

(共通課題) 社会情勢の変化への対応

- (1) グリーン化の推進、(2) デジタル社会の形成、(3) 生活スタイルの変化への対応

漁港の役割

水産物の直接消費や漁業体験など貴重な**体験の場**を提供していく役割の重要性が増大。

- 漁港漁場整備長期計画において、主な成果目標を以下に設定。
- 漁村の活性化により都市漁村交流人口をおおむね200万人増加
- 漁港における新たな海業等の取組をおおむね500件展開

新たな漁港漁場整備長期計画のポイント

重点課題

目指す姿と主な施策

主な成果目標

産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

ア 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ◆ 圏域計画に基づく産地市場等の集出荷機能や製氷施設等の準備機能等の再編・集約
- ◆ 漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増深
- ◆ 輸出先国の基準・ニーズに対応した高度衛生管理や安定供給のための漁港機能の強化

イ 養殖生産拠点の形成

- ◆ 養殖適地の拡大のための静穏水域の確保・活用、漁場環境の改善
- ◆ 種苗の確保から加工・流通に至る一体的な施設の整備

- 流通拠点漁港において、総合的な衛生管理体制の下で取り扱われる水産物の取扱量の割合
45% (R3) ⇒ おおむね70% (R8)
- 漁港・漁場整備や漁港の活用を図る養殖生産拠点地域において、生産の維持・拡大により確保する養殖生産量
おおむね100万トン 等

海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

ア 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ◆ 漁獲対象魚種の多様化に対応した漁場整備
- ◆ フロンティア漁場整備や水産物の生活史を踏まえた広域的な水産環境の整備等の資源管理の取組と連携した漁場整備
- ◆ ハード・ソフト一体的な藻場・干潟対策

イ 災害リスクへの対応力強化

- ◆ 大規模地震・津波等に備えた漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化、浸水対策
- ◆ 漁港・漁村における就労者等の避難対策
- ◆ 機能保全計画に基づく、予防保全型の老朽化対策への転換

- 水産資源の回復や生産力の向上のための漁場整備による水産物の増産量
5年間でおおむね6.5万トン
- 藻場の保全・創造の取組を実施する全ての海域において、取組実施箇所の藻場面積を維持・回復させる
- 流通拠点漁港における、被災後の水産業の早期回復体制が構築された漁港の割合
27% (R3) ⇒ おおむね70% (R8) 等

「うみぎょう」「海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

ア「海業（うみぎょう）」による漁村の活性化

- ◆ 地域の漁業実態に即した施設規模の適正化と漁港施設の再編等による漁港の利活用環境の改善
- ◆ 漁港と地域資源を生かした「海業（うみぎょう）」等の振興と漁港に関連産業を集積させるための仕組みづくり
- ◆ ポストコロナを見据えた渚泊やワーケーション等の交流人口・関係人口の創出

イ 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ◆ 越域防止や防風施設整備等の安全対策の推進
- ◆ 浮体式係船岸や岸壁、用地等への屋根整備など軽劣化施設の整備
- ◆ 漁村における漁業集落排水施設や漁業集落道など、快適な生活環境の整備

- 漁村の活性化により都市漁村交流人口を増加
5年間でおおむね200万人
- 漁港における新たな「海業」等の取組件数
5年間でおおむね500件

※海業（うみぎょう）：海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業をいし、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの

（共通課題）社会情勢の変化への対応

- ・グリーン化の推進（設備等の電化、給電施設の整備、省エネ対策、再生可能エネルギーの導入、藻場の保全・創造 等）
- ・デジタル社会の形成（産地市場の電子化の普及、海域環境観測システムの活用、ICTやドローン・ロボット技術の活用促進 等）
- ・生活スタイルの変化への対応（消費者ニーズに対応できる水産物の提供体制づくり、衛生管理と併せた感染症対策、移住・定住や交流の受入環境づくり 等）

主な成果目標

- 漁村の活性化により都市漁村交流人口を増加
5年間でおおむね200万人
- 漁港における新たな「海業」等の取組件数
5年間でおおむね500件

資料：「漁港漁場整備長期計画のポイント（令和4年度～令和8年度）」（水産庁）より

○所内の組織を改編して第3調査研究部を新設。水産庁が主要施策として掲げている海業の振興に対応するものである。

漁村総研は 海業の取組を支援します！

全力で！

こんな
お手伝いを
します！

海業計画策定

海業の事業計画の作成
を支援します

地域ワークショップ・
協議会の開催

地域の合意形成
を図ります

海業研修会の開催

海業についてご説明、
地域の機運を高めます

様々な
海業



地域資源を活用し、
にぎわいや所得と雇用を
生み出します！



漁港も
積極的に
活用します！

うみぎょう

海業とは？

水産基本計画（水産庁）2022年3月より

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの。

- 漁村では、全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行、活力が低下。
- 一方、漁村の交流人口は約2千万人と大きなポテンシャルがある。

漁村のにぎわいの創出が重要となってくる。

海業（うみぎょう）の推進により、地域の所得
向上と雇用機会の確保を図る。

海業を
推進

水産庁

一般財団法人 漁港漁場
漁村総合研究所

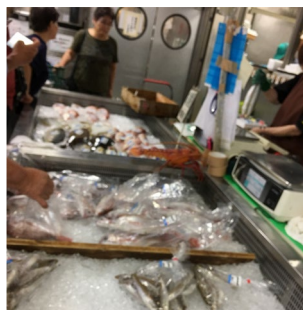
支援

各地区の漁村



2. 各地の様々な海業の事例（先進事例）

直売所＋魚食レストラン



鹿児島県江口蓬莱館

青空食堂から常設食堂へ



静岡県沼津市いけすや

漁船クルーズ

<https://www.vill.tanohata.iwate.jp/kankou/se/sappa-adventures.html>



岩手県田野畑村
北山崎サッパ船アドベンチャーズ

漁業見学・体験

<https://boze.or.jp/tour/>



兵庫県坊勢漁協

直売所＋海鮮バーベキュー

<https://iko-yo.net/facilities/176092>



和歌山県有田市箕島漁港 浜のうたせ

漁村観光・宿泊



京都府伊根町舟屋

魚食体験（釣体験＋さばき体験＋魚食）



福井県小浜市ブルーパーク阿納

プレジャーボート保管

<https://jfyokoshima.com/>



広島県福山市横田シップステーション

■ 江口蓬莱館（鹿児島県日置市）

江口蓬莱館は、東シナ海の豊かな漁場から水揚げされる海産物を中心に、シラス台地に育まれた数々の野菜・肉など、地元の特産品を販売する物産館である。

来館者数：44万人、総売上高：約10億円、従業員数：約66名（平成26年）



【経緯】

昭和34年

地域内のチリメンの需要に応じて江口浜漁協が鮮魚と併せて直売を開始。規模は小さく、事業収入の若干の増加程度 of 取組であった。

平成12年

江口浜漁協産地市場での買参権を取得し、直売も開始（産地市場価格の下支え機能が強化）

平成14年

旧東市来町が公設民営型の物産館として江口蓬莱館を整備。漁協が運営管理、直販事業が拡充。

以降、事業が大きく成長し、以下の効果があった。

- ・新たな雇用機会の創出
- ・産地市場や入札会での価格の底支え
- ・地域住民の水産物需要を喚起
- ・観光客の流入による地域全体の需要増大
- ・農産物・雑貨の販路確保（農業の継続および農地荒廃の抑制）

魚食レストラン (青空市から常設へ)

直売所

食堂・レストラン

マリッジジャー

漁業体験

漁村観光

宿泊

その他

漁港用地利用

漁港泊地利用

異業種連携

■ いけすや (静岡県沼津市)

漁業者の生活を守り、地域存続の危機を打開するため、内浦漁協は出荷量が日本一である内浦の養殖アジを使った食堂事業を実施。

祭りイベントでの食事提供から日曜日限定の市場食堂、常設の食堂へと発展。行列のできる有名店に。

売上高：約1億円、従業員数：約10名



二食感活アジ丼
(メダてプリプリ食感の活あじと一晩寝かした活あじを楽しめる丼)



チームIKS：話題作りに一役



定期開催の食堂



常設の食堂

【繁盛店への工夫】

・**ターゲティング** (客層の想定) :

休日は首都圏の観光客、平日は地元客

・**メニューの工夫** : 平日向け千円以下のメニュー
いけすやならではのメニュー

・**地元メディアの活用** : 準備段階から情報発信

・**調理チームの団結** :

会いにいけるお母さん「チームIKS」の結成

【経緯】

- 平成21年9月 養殖アジを主体としたイベント「活あじ祭」を開催
- 平成25年 漁協の荷さばき所を活用して日曜日限定の「市場食堂いけすや」の営業を開始。(平均20人の利用者)
- 平成25年 食堂建設の起案 (国、県、市の補助金+漁協)
漁協理事、コンサル、行政で作戦会議 (設計デザイン、収支、メニュー、コンセプト、入客方向など)
- 平成26年 静岡県六次産業化アドバイザーや行政の連携と協力
で、いけすや繁盛の仕組みづくりの会議を開催。
- 平成27年5月 「いけすや」をオープン。想定を上回る平日170名、土日休日270名の来場者。

■ 北山崎サップ船アドベンチャーズ（岩手県田野畑村）

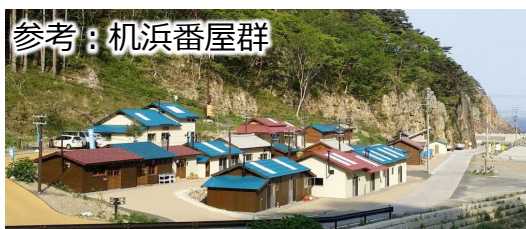
ウニ漁などに使用する小型の磯舟「サップ船」を現役の漁師が操縦し、大型船では入れない洞窟や岩穴を巡るツアー。水深の浅い岩礁地帯でも進むことができ、北山崎の断崖や海食洞などを間近に遊覧でき、迫力ある景色を堪能できる。

2004年当時は350人/年程度だった参加者は、2014年には6100人/年へ成長。

料金：中学生以上1人3,800 小学生3,000円



https://tanohata-taiken.jp/?page_id=14



参考：机浜番屋群

サップ船：陸の漁師がウニ漁やアワビ漁、その他、小規模な刺し網漁などに使用する小型の磯舟（7～8mの8名乗りの漁船）



https://tanohata-taiken.jp/?page_id=14

【経緯】

従来

高さ200mの断崖「北山崎」は、景勝地として年間50万人もの観光客が訪れていたが、景色を眺めるだけの通過型の観光であり、地域への経済効果があった。

2004年

住民による協議会が発足。知床からNPOを呼び、客観的な評価を求め、「番屋群」（漁師が利用する宿泊施設と作業場を兼ねた建物群）の価値を発見。

さらに、漁師のアイデアで海から見る北山崎を観光商品化した「サップ船アドベンチャーズ」も展開。

料金や時間を観光客のニーズに合うよう修正を重ねた。

2010年

4000人を超える参加者（サップ船アドベンチャーズ）

2011年

サップ船8艇のうち6艇が流出、番屋群もすべて流された。体験プログラムの再開を原動力に復興に取り組み、7月にはサップ船アドベンチャーズを再開（2015年4月に番屋群の復旧も完了）

■ 坊勢漁協漁業体験（兵庫県姫路市）

最新式の高性能な船舶レーダーや海底地形図を映し出すソナーなど、様々な機器を搭載した**漁業見学専用の船（漁協所有）**に乗船し、季節に応じた漁業体験を見学できる。

市場のある妻鹿漁港から出港するため、**カヌー、島内見学など様々な組み合わせのプランがある。漁業体験と市場でのBBQ、市場での食事を組み合わせたプラン**

料金：30名まで 100,000円、30名以降1名につき1500～2000円追加。



船上デッキ



見学船が来る時間に合わせて水揚げ



<https://boze.or.jp/tour/>



その場で揚げたブリを船上でさばき、実食する

【経緯】 従来

坊勢で採れた魚を売る市場が無く、他の産直施設へ販売している状況であった。坊勢で採れた魚は岡山産になってしまい、坊勢の魚としての知名度がなかった。

2015年

坊勢の魚の魅力を伝えるため、坊勢島と本土をつなぐ妻鹿漁港に姫路まえどれ市場を整備し、坊勢の魚が売られるようになった。ブランド力向上のため、年に5回ほどイベントを開催。坊勢の魚の美味しさは伝わるようになったが、島の魅力は低いままという課題があった。

2019年

島の魅力を伝えるため、浜の活力再生交付金と水産業強化対策整備交付金、水産業強化対策支援事業の補助金を使って漁業見学船「第八ふじなみ」を竣工し、運航を開始。



漁業見学船

■ 箕島漁港（和歌山県有田市）

簡易直売所の試験実施から常設化。
未利用となっていた野積場用地等を活用し、漁協直営の水産物直売所「浜のうたせ」を整備（R2.5.30オープン）。

R5.4.22「浜のうたせ」屋外スペースに市場で購入して海鮮BBQができる海鮮BBQ場「デジキュー」がオープン。



<https://iko-yo.net/facilities/176092>



記事

都市型BBQ場 運営のデジサーフ、海業（うみぎょう）振興のため、全国の漁協組合と連携した展開を開始。第1弾は和歌山県有田市「浜のうたせ」と連携
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000044677.html>



<https://hamano-utase.com/about>



<https://iko-yo.net/facilities/176092>



<https://rokaru.jp/matome/79937/>

営業期間	2023年4月22日（土）～ 2023年11月末(予定)
休業日	水曜日 ※水曜日が祝日の場合は営業
営業時間	平日：11時-15時（14時受付終了） 土日祝：10時-17時（16時受付終了） ※天候等により、早めに終了する場合がございます。
予約受付時間	1部 10:00-12:00 2部 12:00-14:00 3部 14:00-16:00 ※次の部が始まる前までにお片付けをしてご退席ください。
料金	1人2時間 1,100円（550円/1h） テーブル追加：1台550円/1h ※食材は別途かかります
席数	最大120席
ご予約	WEB予約可能
お問い合わせ	運営は「デジキュー」となります。

■伊根の舟屋（京都府伊根町）

舟屋とは1階が船のガレージ、2階が二次的な居室として利用している建物。伊根地区には周囲約5kmの伊根湾があり、湾に沿って約230軒の舟屋が建ち並ぶ。

近年、舟屋の宿が好評。遊覧船や海上タクシー、街歩き等が人気の観光コンテンツである。



<https://www.ine-kankou.jp/inns>



<https://www.ine-kankou.jp/view/seataxi>



【宿泊スタイル】

- ・舟屋の宿が主流：全16軒内、舟屋の宿は13軒。舟屋に宿泊すること自体が目的で、ハード面やサービスなどへのこだわりを求める方が多い。
- ・1組貸切利用：好評に繋がったひとつの要因
- ・泊食分離：平成29年4月に、公設民営による観光交流施設「舟屋日和」がオープン。食事の負担を考慮せずに宿泊施設が開業できるため、新規開業者が増加。

【経緯】

- 昭和40年代 22軒の宿泊施設が登録。釣りと海水浴がメイン。海水浴客の減少や後継者不足等により宿泊施設が減少。
- 平成12年 11軒（ピーク時の半分）
- 平成20年 Uターン者により1日1組限定の舟屋の宿が開業。（現在の宿泊スタイルの先駆け・以降、少しずつ増加）
- 現在 16軒が営業（2019年時点）

■ブルーパーク阿納（福井県小浜市）

阿納で養殖した鯛を釣ることができる釣り体験施設（海上釣堀）、バーベキュー施設、魚のさばき体験ができる調理施設を有する交流施設。

阿納集落（20世帯）のうち14世帯で構成する**小浜市阿納体験民宿組合が運営**。閑散期にあたる春・秋に教育旅行を受け入れ、新たな入込を確立することで、民宿経営の安定化と平準化を図った。



https://www.fuku-e.com/experience/detail_2004.html

教育体験用釣り施設



「食育体験」では民宿の女将や漁師が釣・さばき・調理等をサポート。漁船クルージングや養殖魚餌やり体験、カヤック、梅ジュース作り、塩作り、寺院での座禅体験等の様々な体験プログラムをつくり、ローテーションで体験させることで、多人数での受入も可能としている。

教育体験用調理施設

さばき方の説明
(紙芝居形式)

利用者は岐阜県を中心に、近畿、関東圏もある。リピーター率は90%以上。最大で年間6千人ほどを受け入れている。

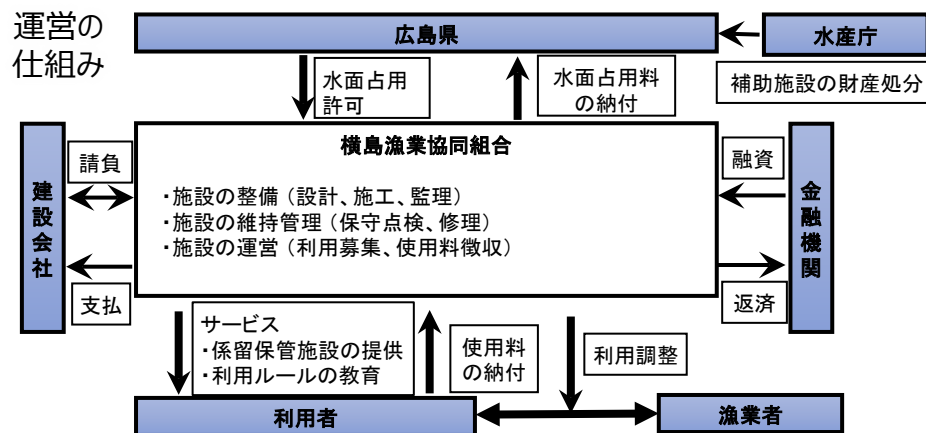
シーカヤック



<https://obama-apc.com/>

■横田シップステーション（広島県福山市）

横田漁港(広島県福山市)において、水産物の陸揚げを行っている家廻地区ではプレジャーボートとのトラブルが頻発したため、横島漁協は、漁船の利用頻度が比較的に少ない向地区へ漁港内のプレジャーボートを集約するため、プレジャーボート用の浮棧橋、駐車場等を整備し、「横田シップステーション」として運営することを決定、平成29年6月に供用を開始した。



水産庁資料

整備にあたり、横島漁協が水面占用許可を出し、広島県に占用料を納付している。浮棧橋の整備主体も漁協であり、費用は、施設使用料の収益により15年間で償還する計画である。なお、漁港管理者が同時期に放置等禁止区域を指定したため、浮棧橋の入艇率100%となっている。

<https://jfyokoshima.com/>



横島漁協が整備した浮棧橋



3. R5 海業振興に向けた事業化支援調査実施地区

	対象地域	対象漁港等	申請者	取組内容
1	岩手県大槌町	吉里吉里	大槌町	・磯焼け対策として駆除したウニの漁港内静穏域を活用した蓄養 ・観光交流協会や地域おこし協力隊と連携し藻場再生活動を組み込んだスキューバダイビング ・小中高を対象とした海洋学習、等
2	福井県高浜町	高浜	高浜町	・観光協会と連携し教育旅行受入れを見据えた漁業体験 ・旧荷捌き所を活用した体験施設の整備 ・定置水揚げの鮮魚直売の朝市開催 ・海鮮BBQ場、海辺のカフェ整備（民間企業誘致、等
3	静岡県沼津市	戸田	戸田観光協会	・海の駅認定による「マリンチェック街道」の登録と活用 ・漁港におけるプレジャーボートやヨットの受入れ事業化、海の駅を活用したヨットレース等の開催 ・大型クルーズ船などの招致と事業化、等
4	静岡県牧之原市	地頭方	南駿河湾漁業協同組合	・旧漁協事務所や荷捌き所、漁港用地等を活用した蓄養施設や直売所・食堂設置 ・漁業体験を含む観光プログラム（漂流ごみやマイクロプラスチック、磯焼けのことを知ってもらう場の設定） ・漁船クルージングやマリンレジャーの体験、等
5	三重県明和町	下御糸	一般社団法人明和観光商社	・プレジャーボートの受入れやダイビングの運営 ・防波堤や釣り利用の開放や釣り用生け簀の設置 ・渚泊 ・漁船クルージングの運航 ・直売所の開設、朝市の開催、 ・漁港の静穏水域でのカキ養殖、スジアオリの陸上養殖、等
6	兵庫県新温泉町	居組	浜坂漁業協同組合	・漁業と調和のとれた海域利用によるシーカヤックやSUPでの漁港周辺の絶景ポイント観光 ・海上アスレチックやジップラインの運営 ・地元海産物の販売や刺身捌き体験 ・バーベキューができる施設の設置 等
7	和歌山県太地町	太地	太地町漁業協同組合	・漁業者による渚泊（漁家及び漁村家庭での宿泊・聞き語り体験） ・シーカヤックやSUP事業の教育旅行や学年行事の推進 ・ダイビングや各種マリンスポーツ ・海上遊歩道に併設した釣り用筏の設置 等
8	長崎県対馬市	比田勝(港)、泉、鰐ノ浦、豊、大浦、富ヶ浦、唐舟志、浜久須	上対馬町漁業協同組合	・港湾のターミナル機能拡充等による受入体制の充実や各地域へ観光客を誘導するためのシステム構築 ・漁師が提供するアドベンチャーツーリズムによるインバウンドからの外貨獲得(旬の高級魚や未利用魚の提供、マリンレジャー体験等)、等
9	熊本県天草市	牛深	天草市	・地域総合交流施設の整備（漁業体験プログラムの運営等） ・オートキャンプ場やホテルなどの企業誘致 ・ヨットやプレジャーボートなどマリーナスペースの整備、海釣り公園の設置 ・直売所や飲食店の開業 ・アワビやウニ類の増養殖場の整備等

3. 海業のキーマンとなる中間支援組織の事例

①岩手県田野畑村

番屋エコツーリズム（NPO法人体験村・たのはたネットワーク）

⇒15年以上活動、地域資源を活かした体験型観光

②福井県小浜市阿納地区

体験交流施設 ブルーパーク阿納（阿納体験民宿組合）

⇒15年以上活動、食育体験と連動した教育旅行

③岩手県大槌町吉里吉里漁港

吉里吉里漁港を活用した海業振興（大槌町）

⇒漁港の地域資源を活かした産業・観光・教育振興



①岩手県田野畑村

番屋エコツーリズム（NPO法人体験村・たのはたネットワーク）

- 多様な主体で構成される**NPOにより地域資源を活かした体験型観光を提供**
- 漁村地域の資源を活用した体験型観光の取組や組織体制に関する先進地
- 住民ガイドによる収益や民泊への新たな顧客を創出し、地域経済への波及

【沿革】

2003年 体験村・たのはた推進協議会 設置

2004年 体験プログラム提供開始

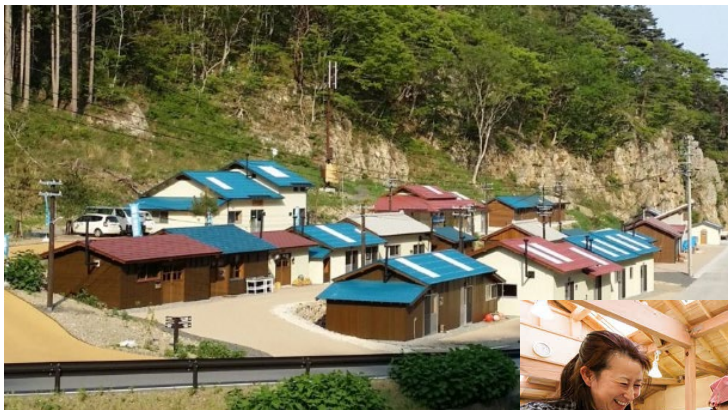
2008年 NPO体験村・たのはたネットワーク 設立

【特徴】

- 人とのふれあいを重視した体験プログラム
- 地域全体で連携した取組み、持続可能な観光地へ
- 直接効果：体験者数の増加、観光選択肢の増加
- 間接効果：地域住民の喜び、モチベーション



サッパ船アドベンチャーズ
（漁師が操縦する漁船で絶景クルーズ）



番屋での体験メニュー
（塩づくり体験、漁師ガイド）



（番屋料理教室：漁師のお母さん）



民泊ホームステイ・家業体験

②福井県小浜市阿納地区

体験交流施設 ブルーパーク阿納（阿納体験民宿組合）

- 閑散期（春・秋）に育旅行を誘客することで、民宿（漁家民宿）経営の安定化と平準化へ
- 「食育体験」と連動した教育旅行の受け入れ、「食」の体験ステージ（魚釣り～食べる）
- 地域の雇用確保に貢献、漁業集落を維持

【沿革】

2006年 漁業と民宿を営む14軒で

「阿納体験民宿組合」を設立

2007年 漁港を活用した体験交流施設

「ブルーパーク阿納」開業

2018年 受入数が開始当初の30倍を超え、増加傾向

【特徴】

- 地域一体となった教育旅行の受け入れ
- 大人数に対応（班別の様々な体験組合わせ）
- 周年観光プランの確立、魚食の普及
- 最大で6千人/年（2018年）、リピーター率90%以上
- 教育旅行事業の収入の約85%が地元へ還元



ブルーパーク阿納（魚釣り施設）



海さんぽ（シーカヤック）



若狭ふぐ（養殖）えさやり体験

③岩手県大槌町吉里吉里漁港（大槌町、各プロジェクトメンバー）

吉里吉里漁港を活用した海業振興

- 漁港を中心に地域が一体となり、多様な主体が資源の活用と共有、保全、産業連携を進めることで持続可能な「大槌型海業」を推進しなりわいとにぎわいの創出による所得と魅力向上
- 町が中心となり各プロジェクトを海業振興事業として整理、中間支援組織への移行を検討

【沿革】

2018年 藻場再生協議会設立

2022年 サーモン養殖事業開始

2023年 海業計画策定

NPO法人おおつちのあそび設立

【特徴】

- サーモン養殖推進：（海面養殖拡大、魚食体験）
- 藻場再生：ブルーカーボン創出・活用
- ウニ畜養：漁港周辺での畜養
- ブルーツーリズム：藻場再生体験・ダイビング体験
- 海洋教育：教育施策と連携した取組の実施



サーモン養殖



観光曳網



藻場再生活動



藻場再生ダイビングツアー

おわりに

- 本調査は海業振興モデル地区に選定された9地区と先行事例調査を行い、今後各地で取り組む海業事業の参考のため本稿をとりまとめた。
- 申請主体による傾向
 - ① 漁業協同組合が申請者の場合は何かしら自営で取り組みたい（この場合、地域との合意形成を行った経験が少ない）。
 - ② 市町村の場合は地域として活性化を図りたい（この場合、中間支援組織や、誰がやるのか？漁協は？が課題となることが見受けられる）。
 - ③ 観光協会等の場合は地域内の合意形成のあり方など少ない事例の中からも課題が示唆された。
- 先行事例からも小さな取り組みから成功までの進化の過程の重要性や、専門家のアドバイスの必要性などが示唆された。
- 今後取り組まれる地域も特色ある地域資源を確認し、地域としての合意形成を計りながら取り組んで行くことが重要である。